

## 「名言・格言」

一日一日にけじめをつけていこう。  
今日のことは、今日やっておこう。  
これは、忙しいとか暇があるとかの時間の問題ではない。  
志の問題である。  
明日にしようという弱い心に鞭を打とう。



土光敏夫 明治29年(1896)～昭和63年(1988)

昭和時代のエンジニア、実業家、財界人。第4代経済団体連合会(経団連)会長。岡山県名誉県民。従二位勲一等

明治29年(1896年)9月15日、岡山県御津郡大野村(現在の岡山市)に肥料仲買商土光菊次郎、登美の次男として誕生。

母登美は、日蓮宗に深く帰依した女性で、女子教育の必要性を感じ、昭和16年(1941年)にほとんど独力で横浜市鶴見区(横浜市)鶴見に橘学苑を開校した程の女傑であった。

校訓を「正しきものは強くあれ」とし、土光は母の気性を強く受け継いだ。

関西中学(現 関西高等学校 関西高校)を卒業後、代用教員をしながら1浪して、東京高等工業学校(現在の東京工業大学)に入学。

大正9年(1920年)東京高等工業学校機械科を卒業後、東京石川島造船所(後に、石川島重工業)に入社した。

大正11年(1922年)タービン製造技術を学ぶため、スイスに留学する。

昭和11年(1936年)芝浦製作所と共同出資による石川島芝浦タービンが設立されると技術部長として出向し、昭和21年(1946年)に社長に就任した。